

第140回春期大会後記

Report of the 140th Conference of the Japan Institute of Light Metals

高橋 英徳

Hidenori TAKAHASHI

令和3年5月15日(土)と16日(日)の2日間にわたり、第140回春期大会が第139回秋期大会に引き続きオンラインで開催されました。第138回春期大会は新型コロナウイルスの影響で急遽中止となりましたので、富山国際会議場で開催された第136回春期大会以来の春期大会の開催となりました。第136回春期大会に比べると100名ほど減少しましたが、前回を上回る471名もの多くの皆様に参加していただきました。オンライン開催のため、2.5日制の大会初日に行われていた定時総会や表彰式等の行事は大会内では行われず、軽金属学会賞受賞講演(関西大学 池田 勝彦 先生)、軽金属功績賞受賞講演(3件)、テーマセッション(T1:12件, T2:30件)、一般講演(口頭発表:92件・ポスター発表:59件)、企業招待講演、男女共同参画セッション等が行われました。第139回秋期大会後に実施されたアンケートにおきまして、参加者相互のコミュニケーションがオンライン開催では取りづらいというご意見が多く寄せられたことから、本大会では「談話室の設置」および「懇親会の開催」を初めて実施することになりました。

今回も口頭による講演には、Zoomミーティングルームを5会場設定し、各セッションが実施されました。ポスターセッションに関しては、前回とは異なる方法で実施されました。事前にポスターのPDFファイルを提出していただき、大会サイト上で表示できるようにし、セッション時間外でも発表内容が確認できるようになりました。また、発表はZoomのブレイクアウトルームを用いて、前半29件、後半30件のポスター発表が行われ、各発表に聴講者の入室状況が把握できるようになりました。今回新たに実施された「談話室」と「懇親会」にはRemoが利用されました。

大会初日は、前日の理事会で選任された熊井 真次 新会長(東京工業大学)から会長挨拶が行われた後、5会場にわかれて各セッションが始まりました。テーマセッションT2「LPSO/MFS構造の材料科学(IV)」は、初日から2日目の最終セッションまで常に多くの聴講者が集まり、熱心な議論が行われました。午後からは二部制で行われたポスターセッションが行われ、各会場で質疑応答が活発に行われました。10名以上の聴講者が同時に入室した会場もあり、オンライン開催の利点であると感じました。ポスターセッション終了後の企業招待講演では、「加工技術の新機軸」というテーマで橋本 隆 氏(三菱電機株式会社)と高橋 嘉仁 氏(株式会社デンソー)にご講演いただき、70名にも達する多くの聴講者が

集まりました。男女共同参画セッションは全講演が終了後に懇親会直前の時間帯で開催されました。「身近な無意識のバイアス」というテーマで北尾 真理子 氏(株式会社ダイバーシティオフィスKITAO)に「ダイバーシティの尊重と活用推進を妨げるもの」と題して講演を行っていただきました。実体験に基づいた事例を多く挙げられ、無意識のバイアスについてわかりやすく説明していただきました。その後、オンライン会員懇親会が初めて開催されました。Remoは、会場内にテーブルが複数準備されており、座席数分の参加者が同じテーブルに着くことができ、カメラ・マイクをONにして会話を楽しむことができるシステム(図1)です。会員懇親会は、大会実行委員の千葉 誠 先生(旭川工業高等専門学校)の司会で行われ、実行委員長 高橋からの挨拶、熊井新会長の挨拶および乾杯から各テーブルでの歓談になりました。参加者は66名でしたが、テーブルの移動は空席があれば自由に行うことができるため、各参加者が多くの皆様と交流されていたように思います。懇親会の最後は、次回第141回秋期大会実行委員長の中山 栄浩 先生(山梨大学)のご挨拶の後、大会副実行委員長の坂入 正敏 先生(北海道大学)の閉会の挨拶・乾杯(北海道の締めは乾杯です。)で終了しました。私個人の感想になりますが、想像以上に交流を楽しむことができましたので、時間が短く感じました。

大会2日目はテーマセッションT1「難燃性マグネシウム合金展伸部材創製のための最新技術開発10」も行われ、一般講演も含めて活発な議論が展開されました。午後からは池田先生による軽金属学会賞受賞講演が「 β 型チタン合金—その電気比抵抗の異常性の調査から低コスト β 型チタン合金の開発へ—」というタイトルで100名以上の多くの聴講者の前で行われました。その後も最終セッションまで各会場とも多くの



図1 Remoによる会員懇親会

聴講者が集まる中、熱心な質疑応答が行われました。数件ですが、講演者の接続トラブルが起きたという報告がありましたが、大きなトラブルはなく大会が終了しました。

最後に、マニュアルの整備や当日の会場係の配置など運営については、中山委員長をはじめとする大会運営委員会の皆様のご尽力によるものです。心より感謝申し上げます。2年

前から実行委員会準備委員会を立ち上げ、札幌市での開催を進めておりました。残念ながらオンライン開催となりましたが、札幌市の5月は新緑が美しく、市花であるライラックの甘い香りが街中に立ちこめる季節になります。別の機会にご来札・ご来道いただけたらと思います。